

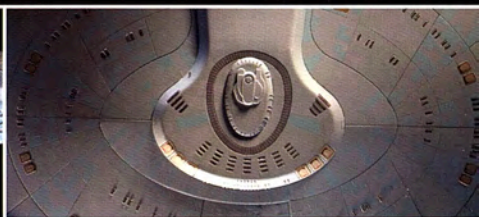
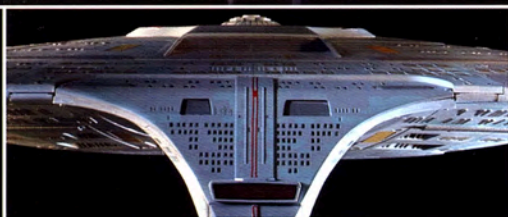
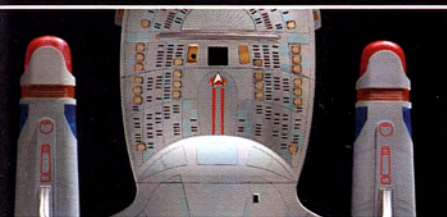
週刊 スタートレック エンタープライズD

STAR TREK™

THE NEXT GENERATION

BUILD THE U.S.S. ENTERPRISE NCC-1701-D

シリーズガイド



スタジオモデルを再現した 迫力のダイキャスト!

本シリーズで組み立てるモデルは、『新スタートレック』(TNG)に登場するギャラクシー級の宇宙船U.S.S.エンタープライズNCC-1701-Dを忠実に再現した、全長約70cmのダイキャスト・レプリカだ。撮影に使用された3つのスタジオモデルを細かく調べて設計され、円盤部と推進部が分離可能で、窓やワープ・ナセルを光らせるイルミネーション・ライトを搭載している。船体には、フェイス・アレイ、転送エミッタ、艦長専用艇、航法灯などの細かい装備までが再現されている。

窓の明かり

船体内部に電飾用の照明装置があり、オリジナルのスタジオモデルと同様に、指定された窓だけを光らせることができる。

組み立ては簡単

すべてのパーツは、はめ込むかネジで留めるだけで組み立てられる。接着剤や塗料は必要ない。

死角なし

本シリーズのモデルはあらゆる角度から見えるように設計されているので、どの角度からでもエンタープライズDの姿を楽しめる。

塗装済み

すべての部品は、事前に細かく塗装されている。船体番号なども印字されている。

姿勢制御スラスター

円盤部の外縁には姿勢制御スラスターなど、宇宙艦隊の宇宙船に搭載される各種装備が忠実に再現されている。

金属製の外壁

船体外壁は、はめ込むかネジ留めで固定する金属製のパネルで構成されている。

ワープ・ナセル

それぞれのワープ・ナセルは独自の電源を持つ独立したユニットだ。

エンジンの輝き

ワープ・ナセルは、バサード・コレクターとフィールド・グリルが光る。

発光するデフレクター

メイン・デフレクターは内側から光る。

ディスプレイ・スタンド

本シリーズのモデルはスタジオモデルを原型として作られており、ディスプレイ・スタンドもスタジオモデルの支柱と同じ位置についている。

全長
約70cm!

スタジオモデル

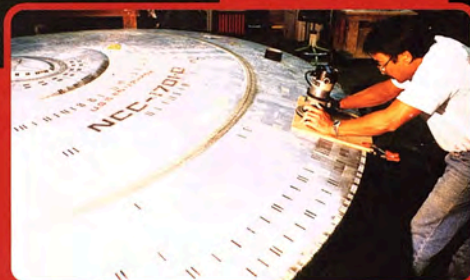
「新スタートレック」(TNG)の制作者たちは、撮影にあたり、3つの異なるU.S.S.エンタープライズNCC-1701-D(エンタープライズD)のスタジオモデルを使用した。インダストリアル・ライト&マジック(ILM)は、船体の拡大シーンの撮影に対応して精巧に作られた「6フィートモデル」(約1.8m)と、遠くから見た映像に使われる、あまり精巧でない「2フィ-

トモデル」(約60cm)のふたつを作った。「6フィートモデル」は円盤部と推進部が分離できる。第3シーズンからは、新たに作られた「4フィートモデル」(約1.2m)が使われた。「4フィートモデル」では、円盤部の厚みが増し、バーラウンジ周辺の細部が変更されている。本シリーズで組み立てるモデルは、これら3つのモデルをベースにして設計されている。

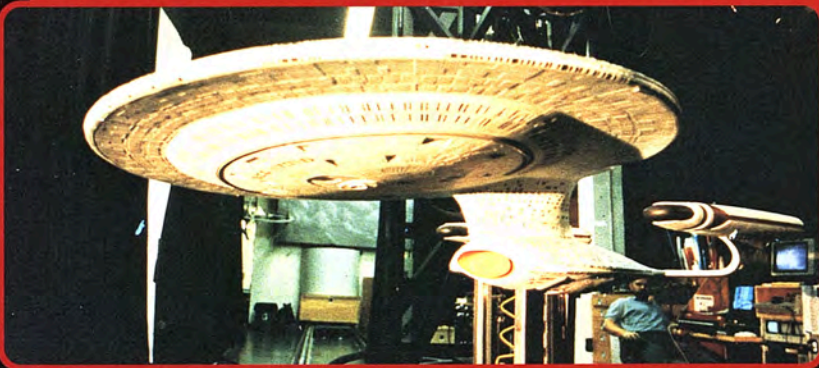


エンタープライズDの「6フィートモデル」は、円盤部が薄めで、表面が滑らかだった。また、3つのモデルの中で、円盤部と推進部が分離できる唯一のモデルだ。

「6フィートモデル」は映画「スタートレック:ジェネレーションズ」の撮影に使用するために修復され、再塗装された。また、ILMは、不時着シーンに使う巨大な円盤部のスタジオモデルも作っている。



TNGの視覚効果チームは、第3シーズンにエンタープライズDの「4フィートモデル」を新たに作った。外壁の模様や船体の形状が、今までのモデルとわずかに異なっていたが、以降のシーズンの撮影にはこのモデルが使われた。



撮影にも使える

「これは精巧なモデルで、私たちがTNGのために撮影したショットのいくつかには使えそうな品質です。今日の視覚効果は、主にCGが使われていますが、このモデルは、私たちが伝統的な視覚効果で撮影していたころに、職人たちが作り上げたスタジオモデルを思い起こさせます」

TNG視覚効果プロデューサー ダン・カリー



船体の色

エンタープライズDの正確な色を再現するのは簡単な作業ではない。最初に作られたふたつのスタジオモデルは、グリーンがかかったソフトなブルーの上に、薄いグリーンのアズテック・パターンという配色で塗装されていたが、視覚効果チームが撮

影した映像ではグレーに近い色に見えた。そのため、「4フィートモデル」は、最初からグレーに塗装された。本シリーズのモデルは、可能な限り、映像に登場するエンタープライズDの外観と、色を一致させようと試みている。



本シリーズのモデルは、特にTNGのHDリマスター版を参照して、画面上の外観に合わせて慎重に塗装されている。

船体分離

エンタープライズDの最も記憶に残る機能は、船体がふたつの部分に分離する機能だ。本シリーズのモデルはそれが可能なように設計されており、円盤部と推進部を分離して、ふたつの船体を別々にディスプレイすることができる。円盤部と推進部のイルミネーション部分は、それぞれ独立しており、別々に操作することが可能だ。



エンタープライズDの船体分離は、「未知への飛翔」で最初に映像化された。

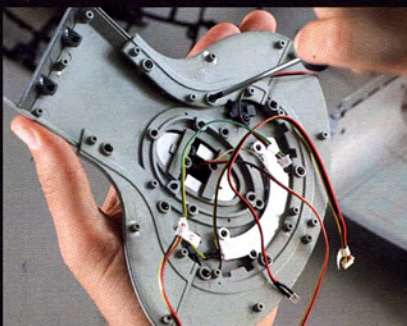


イルミネーション

本シリーズのモデルの内部には電飾用のライトが搭載されている。船全体の窓、航法灯、メイン・デフレクター、通常エンジン、ワープ・ナセルがすべて発光する。円盤部と推進部は、独立した制御系と電源を備えているため、それぞれ独立して発光を操作できる。

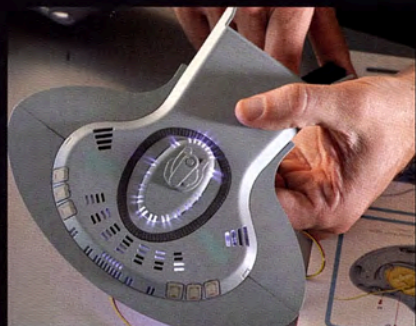


最終塗装が施される前の試作品のライト。



組み立ては簡単

本シリーズのモデルの製作は、簡単だ。すべてのパーツは単にはめ込むか、または所定の位置にネジ留めするだけ。配線は、コネクタでつなげるだけに設計されており、接続も容易だ。バッテリーパックと回路基板も提供されるので、イルミネーションの点灯テストも可能。



全長約 70cm

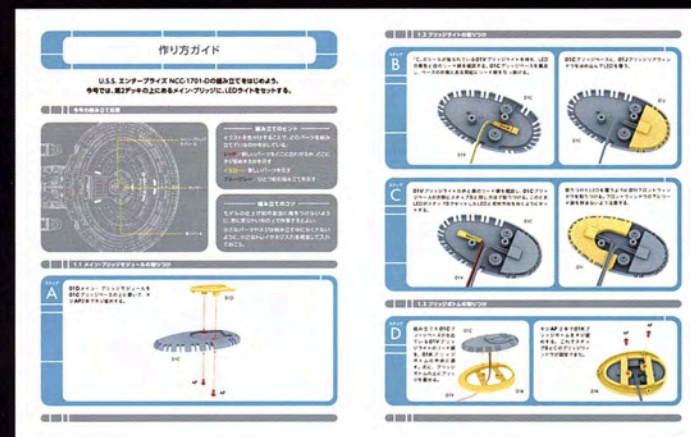
本シリーズのモデルは完成すると、全長約70cmで、金属フレームを備えている。撮影用のスタジオモデルと同じように推進部の下部に装着する、ディスプレイ用のスタンドも付属する。



※パーツの色や形状等は変更になる場合があります。

作り方ガイド

マガジンでは、モデルの組み立て方をわかりやすく説明する。各パーツには番号が振られ、組み立て手順のイラストは色分けされているため、簡単に組み立てられる。組み立て手順はとてもシンプルで、すべてのパーツは、事前に詳細な塗装済みで、船名や船体番号なども印字されている。それらを、はめ込むかネジ留めで固定するだけで完成する。接着剤は必要なく、使うのはドライバーだけ。



模型製作の舞台裏

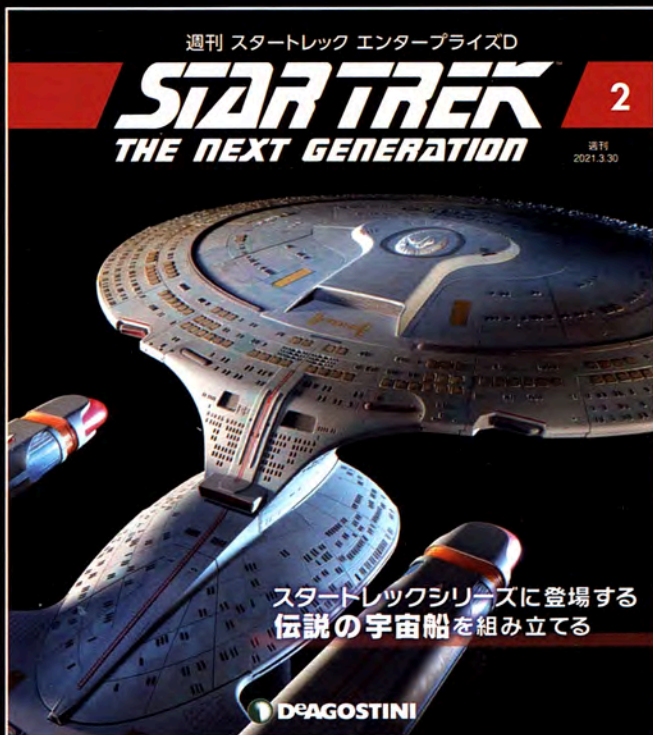
マガジンには、TNGの基礎を築いた制作者たちが語る内部情報や設定の変遷などが掲載される。アンドリュー・プロバートがエンタープライズDをどのように設計したかにはじまり、詳細なインタビューと彼のオリジナル作品を紹介。後の号では、さまざまな撮影用スタジオモデル、エンタープライズの内装デザイン、視覚効果の秘密についても詳しく解説する。



撮影エピソード

TNGのエピソードの制作秘話を紹介する。脚本家、監督、出演者たちのインタビュー記事、オリジナルの制作アートワーク、撮影中の貴重な写真などを掲載する。これらの記事は、テレビで放送されたピカード艦長とクルーたちのエピソードがどのように作られたのかを知る、究極の参考書になるだろう。





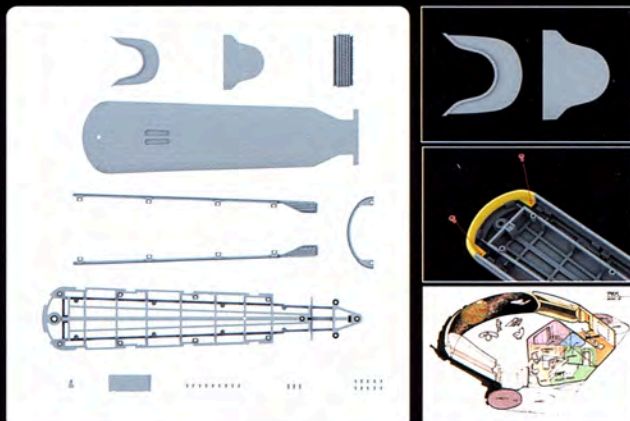
第2号 3月16日(火)発売 価格 **1,990円**
(10%税込)

作り方ガイド

ワープ・ナセル(1)の上部を組み立てる

模型製作の舞台裏

エンタープライズDのデザイン PART2
ブリッジを創る PART1



第3号 3月23日(火)発売 価格 **1,990円**
(10%税込)

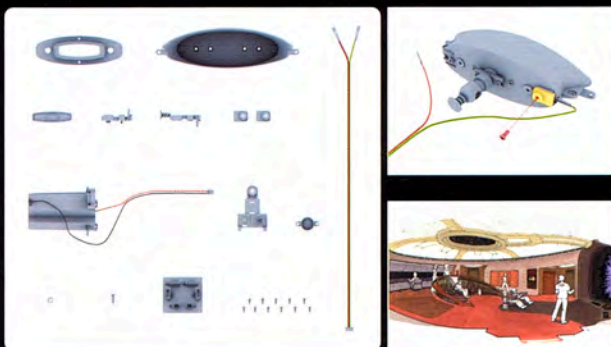


作り方ガイド

メイン・デフレクターに
LEDライトを組み込む

模型製作の舞台裏

ブリッジを創る PART2



第4号 3月30日(火)発売 価格 **1,990円**
(10%税込)



作り方ガイド

デッキパネルを
組み立てる(1)

撮影エピソード

ロスト・ジェネレーション

